

# 7~0エリア間ダクト発生オープン情報

2006年 5月 3日 ~ 5月 4日 JG0TEV 中村

5/3移動性高気圧に覆われて7~0エリア間のオープンが確認されました。

5/4全国的に移動性高気圧に覆われて、日本海、太平洋でのダクト発生を予想しましたが、8~7エリア間のオープンが確認されました。

## 5月3日のダクト発生域 (推定)



7~0エリア間オープンが確認されました

J07IZC須藤さんからのオープン情報・・・

21:59 JJ0AD0(新潟県佐渡市)-J07IZC(秋田県にかほ市) RS52-59  
22:47 JH0RC(新潟県燕市) -J07IZC(秋田県にかほ市) RS58-59

## 5月4日のダクト発生域 (推定)



8~7エリア間オープンが確認されました

5/4 全国的に移動性高気圧に覆われて、日本海、太平洋でのダクト発生を予想しましたが、8~7エリア間のオープン情報がありました。

22:40 JA1THH/8(北海道松前郡松前町)-J07IZC(秋田県にかほ市) RS56-59  
J07IZC 0.6W出力

JG0TEVは仲間と飲み会のため移動運用できず。

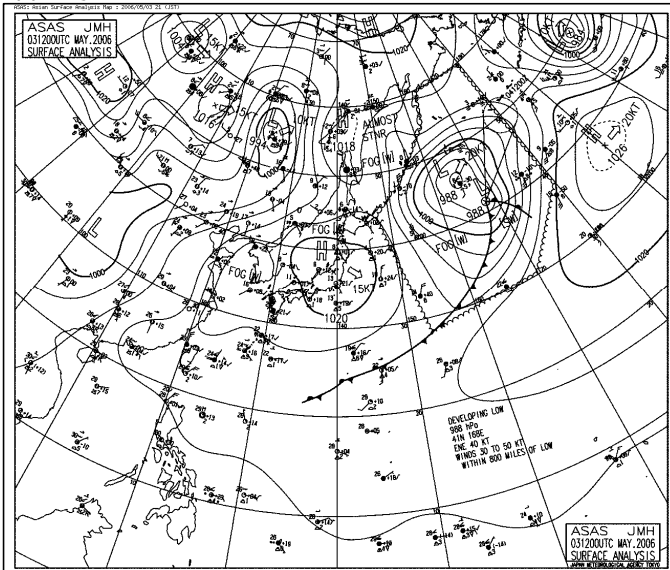
8エリアとの交信チャンスただただに残念～。

## 気象解析

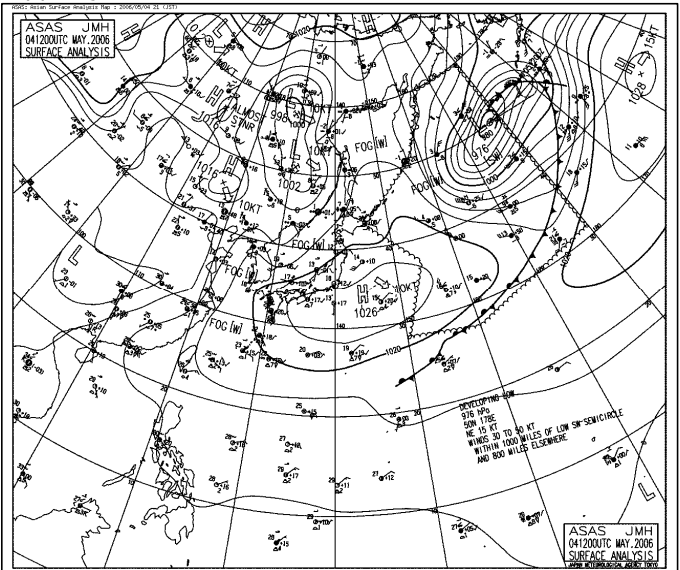
地上天気図から3日から4日にかけて移動性高気圧が勢力を強めながら日本付近を通過したことがわかります

## 地上天気図

3日21時



4日21時



850hpa面解析図をみると、3日から4日にかけて高気圧に伴う1,500mの等高線は日本海中部を横切っていて本州付近は高気圧の勢力圏内であったものと判断できます。4日21時には本州の南海上に1,560mの等高線も解析でき勢力の強まりが読みとれます。

湿数は輪島上空で 3日21時に 35 、4日21時には 26 など、非常に乾燥した空気が流れ込んでいたことがわかります。

風向と気温変化から、南よりのあたたかい空気が流れ込んだことがわかります。

このような状態で、700hpa面解析図から3日21時には日本付近でトラフに伴う負渦度領域が広がっていますが、4日にはリッジが移動ってきて負渦度領域に覆われています。

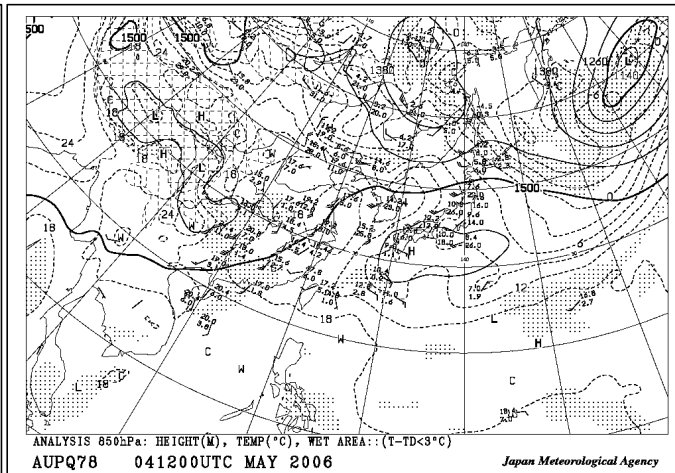
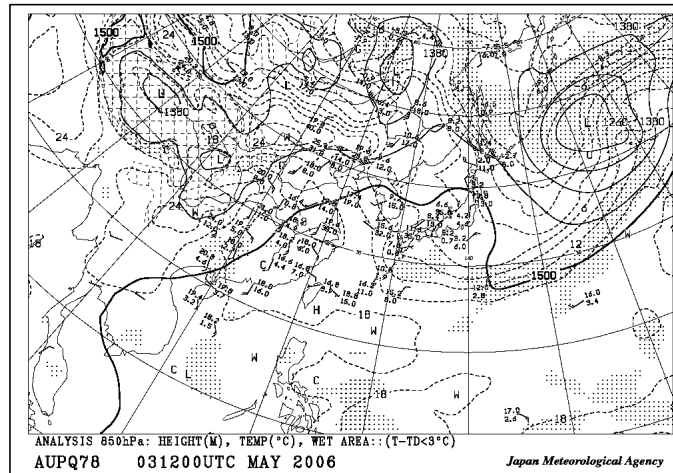
日本付近における700hpa面の鉛直流は上昇流域が卓越していますが、乾燥空気を伴った暖気移流によって空気全体があたまったことによって上昇流が発生しているもので、ダクト形成に不利な条件ではないものと考えます。

以上から、ダクト形成条件がそろいやすい状態であったものと判断します。

### 850hpa面高度・気温・湿数

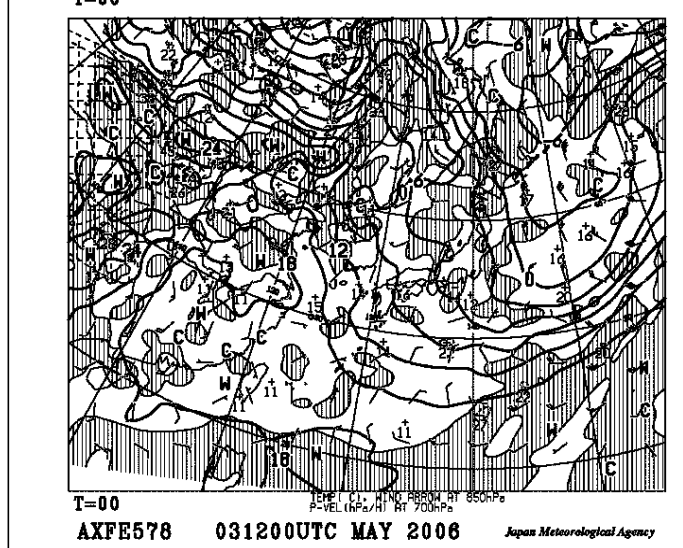
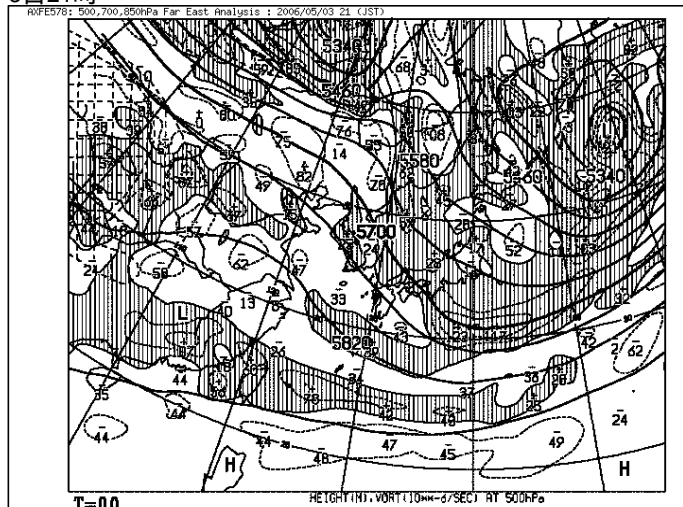
3日21時

4日21時



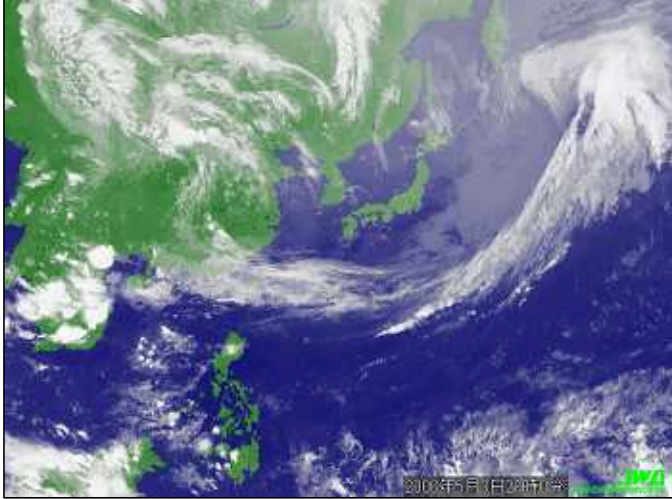
### 500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温

3日21時



【参考】 赤外線雲画像

3日21時



4日21時

